

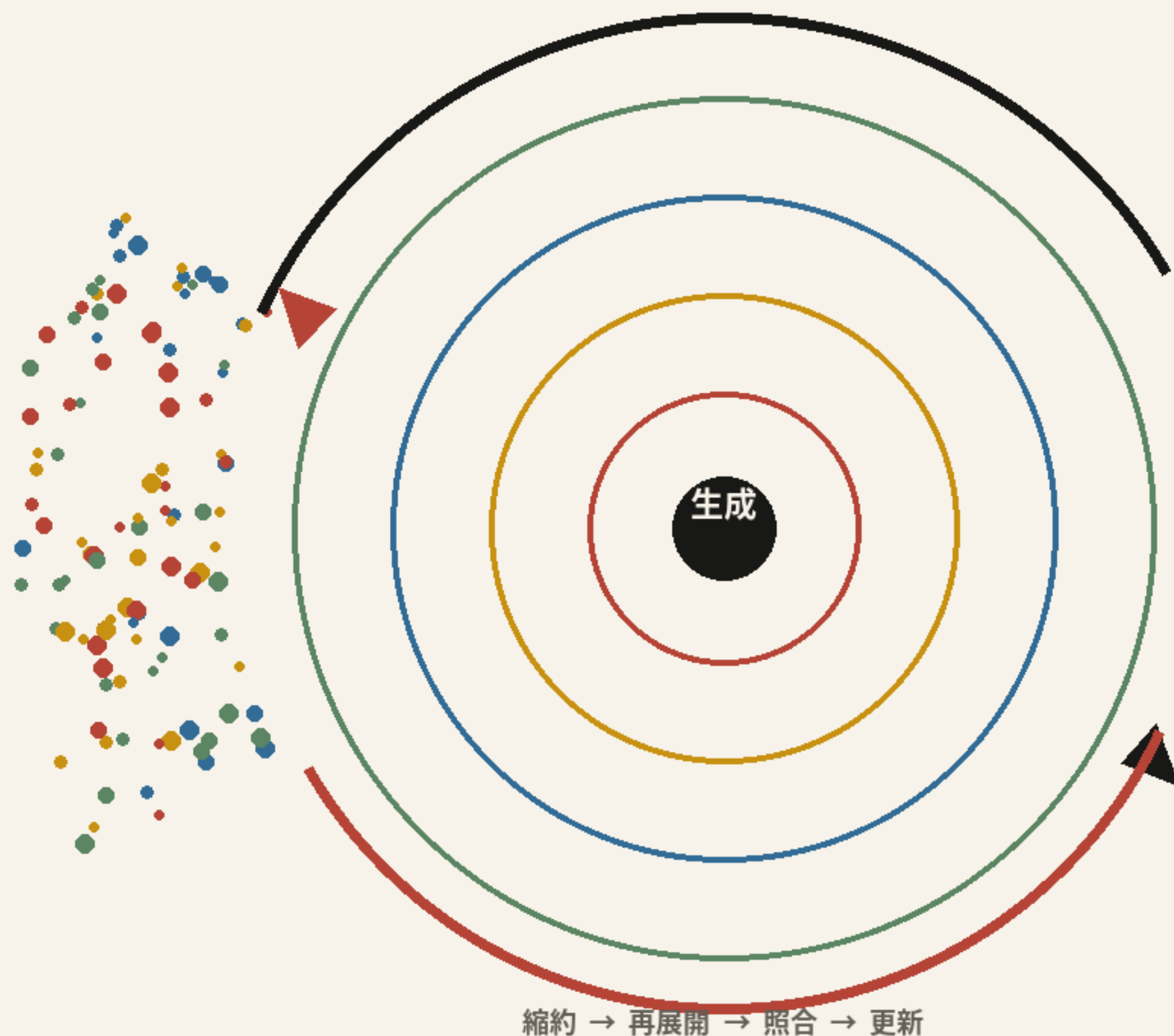
次元往還能力

超低次元と超高次元を往復し、
そのあいだを貫く関係の筋を捉える。

ミクロ ⇄ マクロ

部分 ⇄ 全体

事実 ⇄ 認識



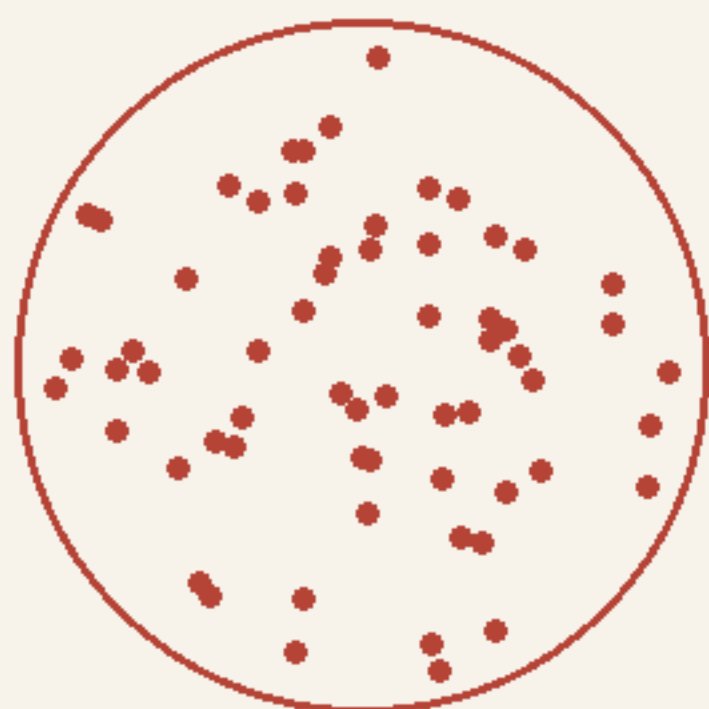
次元往還能力とは何か

超低次元の一点を保持したまま、
超高次元の全体構造までたどり、再び一点へ戻る。

異なる次元のあいだを往復しながら、
各階層にある事実と関係の筋を保持する力

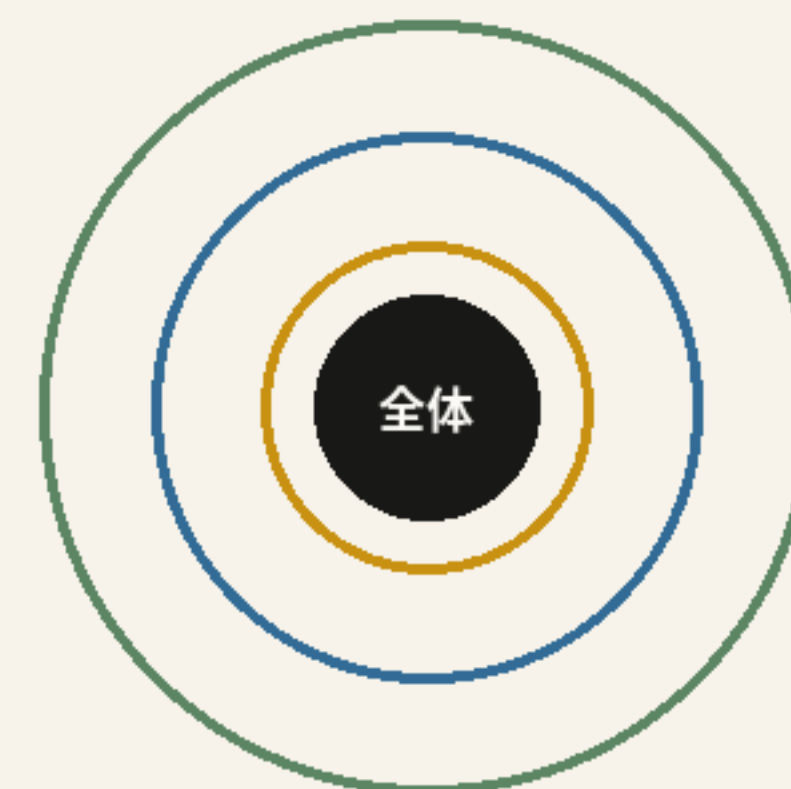
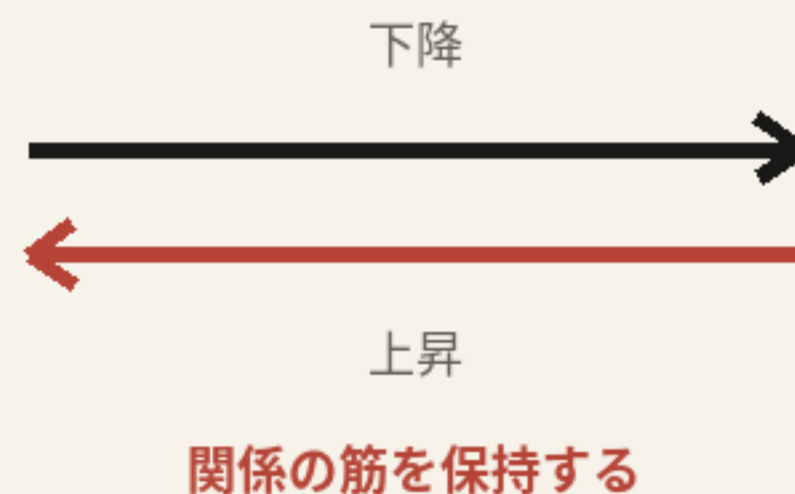
超低次元 → 超高次元 → 超低次元
ミクロ → マクロ → ミクロ → マクロ……

超低次元と超高次元を、筋を失わずに往復する



超低次元

差異・点・接触・運動
言語化前の微細な事実



超高次元

人・社会・生命・自然
複数の階層と時間を含む全体

高次元へ行くだけではない。最小の一点へ戻り、全体を更新できること。

次元往還能力を構成する、4つの働き

01



微細な差異まで降りる

名称や意味の手前にある、
配置・距離・接触・身体反応を見る。

02



全体構造まで上がる

個別の事実を、関係・制度・歴史・
生命・自然へ接続する。

03



事実を失わず保持する

抽象へ上がっても細部を消さず、
細部へ降りても全体を失わない。

04



部分と全体を更新する

部分から全体を組み直し、
変化した全体から再び部分を見る。

重要なのは、高さではなく「次元幅」

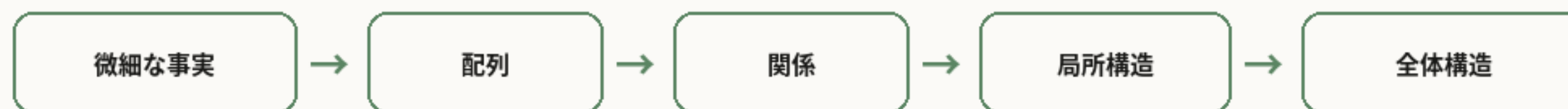
どこまで降りられるか。どこまで上げられるか。
そのあいだを、事実を失わずに往復できるか。



抽象と実体、細部と全体を切り離さず、往復の幅そのものを知性として捉える。

ミクロとマクロは、途中の関係が保たれると合致する

合致



各階層で事実と関係の筋が保たれ、ミクロからマクロまで連続している。

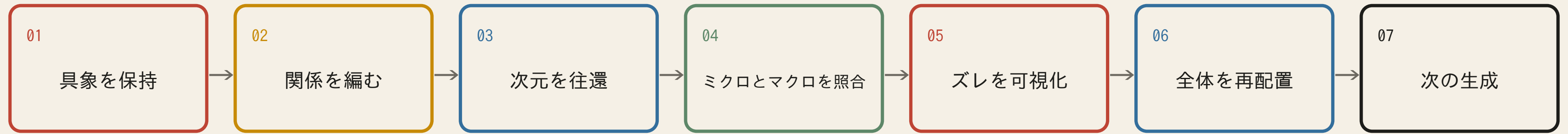
ズレ



途中で関係が失われると、実体と認識が離れる。事実を配置すると断線地点が現れる。

構造強度 = 複数の事実が、異なる階層と時間を通して、同じ構造を指し示す強さ

知性を、次元往還として捉え直す



構造を完成した答えとして固定せず、
事実との照合によって、何度でも更新する。

知識量や処理速度だけではなく、異なる階層をつなぎ直せること。

次元往還は、照合と再配置を通して次の生成を生む



往復のたびに構造は固定されず、事実との照合によって更新される。

次元は、上昇するだけのものではない。

縮約され、展開され、下降し、上昇し、再び戻る。

生命、自然、人間、社会、芸術は、次元間の往復によって、
部分と全体を相互に変化させながら生成を続けている。

超低次元と超高次元を往復し、
そのあいだを貫く関係の筋を捉える。